

「日本人らしさを見つめ直して」 (中島匠郷)

[おすすめしたい本：河合隼雄『日本人の心』]

グローバル化。これからの日本は世界に目を向けねば生き残れないと叫ばれている。しかしながら世界世界とはいうものの、そもそも日本人らしさとは何か、自分という存在の価値とは何かという一つの疑問にぶつかる。

そんな素朴な疑問に答えてくれたのが、『日本人の心』という本だ。この本の興味深い所は、上記の問いに対して宗教・心理学に結びつけて考察している点にある。例えば、日本人は無宗教ではない。日本人らしさは多神教によって醸成されてきたという点や心の時代といわれている現代においてコスモロジーという生き方を提唱している。

エジプト人のある方から見ると、日本人はコーランの教えを守っているかのように立派な人間が多いようだ。著者はこうした内容について、日々の生活における多神教に拠る所が大きいのではないかと述べている。例えば、いただきますというのは大いなる何かに対しての感謝の念であり、もったいないは、限りあるものを慈しみ、自然との調和を目指す精神としている。なるほど、自分という存在は大いなる世界の一部であり、世界もまた自分的一部分であるという精神性は、日本人独特のものなのかもしれない。

心の面においては、イデオロギーではなくコスモロジーこそが必要だと主張している。イデオロギーは、誰かが主張した内容にそのまま乗り込むという意味で、借り物の思想であるともいえる。対してコスモロジーとは、自分の価値や信念について考え、それを現実世界の価値観と衝突させながら、時には融合させながら、自分らしい生き方を創っていくものと述べている。なるほど、己を磨きながら、世界と自分を繋ぐ価値観を形成していくということなのかもしれない。

この本から、世界は自分でもあり自分もまた世界である。そんな日本人らしさと心を教えられた気がする。自分の心に迷いが生じたとき、日本人としてのアイデンティティーを知りたくなった方には間違いなくお勧めできる一冊だ。